

「コシヒカリ」の栽培ごよみ

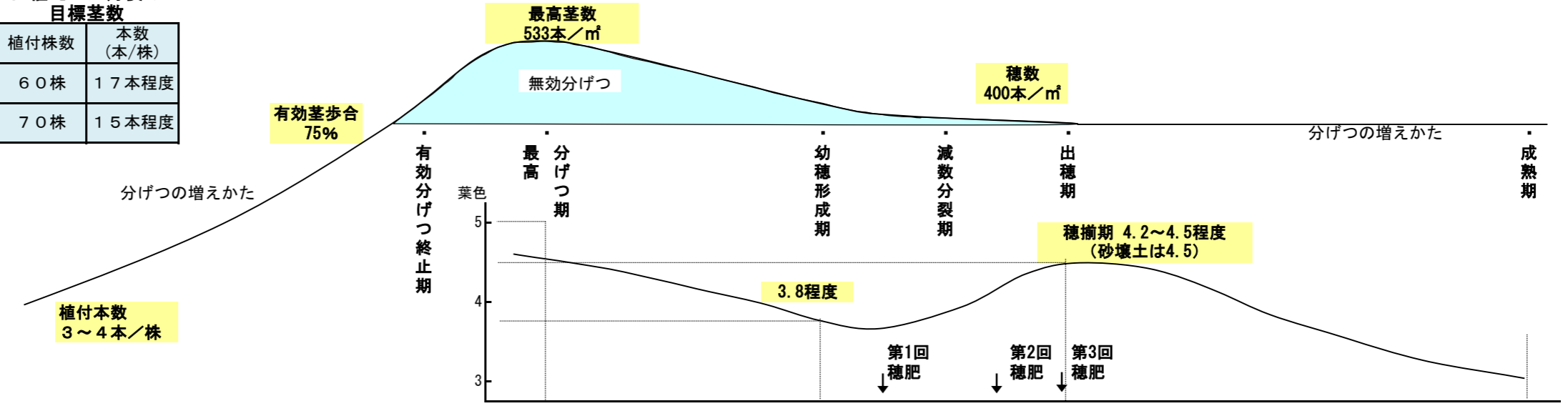
収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高茎数 (本)	533
有効茎歩合 (%)	75
㎡当たり穂数 (本)	400
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	280
登熟歩合 (%)	87
玄米千粒重 (g)	22.5

田植え1か月後の目標茎数

植付株数	本数 (本/株)
60株	17本程度
70株	15本程度

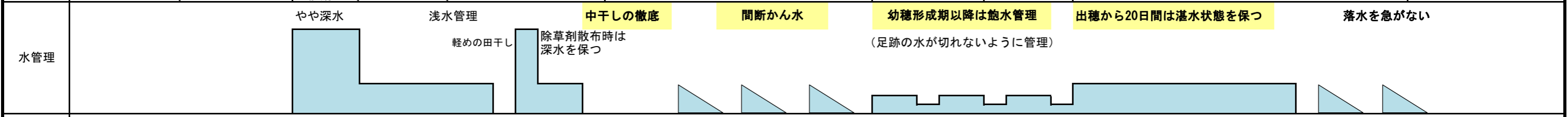
植付本数 3~4本/株



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月
----	----	----	----	----	----	----

草刈時期	★		★		★ 出穂 ←本田防除以降、収穫までは草刈りをしない→		★
------	---	--	---	--	----------------------------	--	---

生育区分	育苗期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期 出穂23日前	穂ばらみ期 出穂10日前	登熟期	収穫期
------	-----	-----	--------	--------	-----------------	-----------------	-----	-----



栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する ・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する ・ 過乾燥による胴割米を発生させない ・ 仕上水分 14.5 ~ 15.0 % ・ 適期内に刈取り、刈り遅れのないように注意する ・ 籾の黄化率 85 ~ 90 %程度が刈取り適期 ・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る ・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ ・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する ・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ ・ 穂揃期の葉色を 4.2 ~ 4.5 に誘導する ・ 3回目穂肥は葉色に応じて出穂直前に行う ・ 本田防除の徹底 (適期防除の実施) ・ 2回目穂肥は1回目の7日後に確実にを行う ・ 1回目穂肥は幼穂長 15 ~ 20 mm を確認してから慎重に行う ・ 分施肥体系の場合 ・ 幼穂形成期の葉色を 3.8 程度に誘導する ・ 分施肥体系の場合 ・ 幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡の水が切れないように管理する) ・ 畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる ・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする ・ 中干し開始は遅れないよう確実に行う (田植え後1か月までに実施) ・ 適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分けつを抑制する ・ 早めに手溝を掘り、水のかん排水の効率化を図る ・ かん水は朝又は夕方に短時間に行う ・ 良質の茎を早く確保する ・ 除草剤散布は適期に行い、環境汚染に配慮し1週間程度は止水とする ・ 活着後は浅水管理とし、日中は止め水で田水温を高める ・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植え後7日以内に施用する ・ 田植え3日間はやや深水として活着を早める ・ 一株の植付け本数は 3 ~ 4本とし、3cm程度の深さに植える ・ 5月15日頃を中心に田植を行い荒天時の田植えは避ける ・ 田植機の株数設定は 70 株/坪 に設定して作業を行う ・ 育苗施設は育苗ハウスの外で散布する ・ 病害虫予防のため育苗施設を行う ・ 基肥量は地区基準量を守る ・ 天候に合わせた温度管理を確実にを行う ・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120 g以下としてよい苗を作る ・ 田面の均平をよくする ・ ゆつくりと耕起し、作土 15 cm 以上を確保する ・ 土づくり資材の散布